

3/3 埼玉県生協連ピースフォーラム





核兵器をなくすために必要なことを学び、考えました



川崎哲さん(ICAN核兵器廃絶国際キャンペーン会長兼国 際運営委員)を講師に迎えて、埼玉会館とZoomによるオンライ ンで開催し、78人が参加しました。川崎さんから、ロシアのウク ライナへの武力侵攻について、世界が歩んできた核軍縮の歴 史について、核兵器禁止条約について、そして私たちができる こと、しなければいけないことについて、お話しいただきました。

また、後半では、埼玉県原爆被害者協議会(Uらさぎ会)の 「これまでの活動とこれから考えていきたいこと」について、 会長の原明範さんから報告いただきました

埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)主催

核兵器のない世界を実現しよう!活動交流会

核兵器をなくすための活動を どう広げていくのか、意見交換しました



動交流会を開催。埼玉会館会議室およびオンラインで28人が参 加、団体・個人からの活動報告、各地で依頼を受けて行っているし らさぎ会の「被爆の証言」活動についての報告の後、核兵器をな くすための活動をどのように広げるのかについて、意見交換を行い ました。高校生などの若い世代を含め、関心を持っていない人に振 り向いてもらうためには何が必要かなどについて話し合いました。



5/23 第58回埼玉県消費者大会プレ学習会



食品表示の最新動向について学びました



埼玉会館会議室およびZoomによるオンラインで、(一社) Food Communication Compass 代表 森田 満樹さんを講師に 学習会を開催し、16団体72人(会場27人、Zoom45人)が 表示、遺伝子組換え食品表示、食品添加物表示制度、健康食 品と機能性表示食品、食品表示のこれからについて、食品表示 の基本的なことから、実例を示しながら多岐にわたり、詳しく説明 いただきました。質疑応答では、会場からもオンラインでも質問が 寄せられ、ていねいにお答えいただきました。



埼玉県食品衛生安全局と 消費者団体との懇談会



埼玉県食品衛生監視指導計画などについて 説明いただきました

埼玉会館会議室にて、埼玉県食品衛生安全局5人、消費者団体9人の出席で開催 しました。2021年度(2022年2月)に予定した懇談会がコロナ禍で延期になり、開催し たものです。

埼玉県食品衛生監視指導計画の執行状況や今年度の計画のポイントなど、鳥イン フルエンザや豚熱の防疫措置の実施状況、S-GAP推進における現状と課題について 報告いただき、質疑応答を行いました。

写真ニュース

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

(2022年7月発行)

2022



6/23 埼玉県生活協同組合連合会 第51回通常総会·創立50周年記念講演会







2022年度事業計画など すべての議案が承認されました 開催しました



提案する吉川会長理事



全議案、承認可決されました

埼玉会館にて、代議員定数41人中41人(実出席29人、書面出席12 人)が出席し、開催しました。今回の通常総会は、引き続き安全確保しなが ら実出席で運営しました。来賓として、埼玉県県民生活部消費生活課課 長若松孝治様、埼玉県農業協同組合中央会専務理事小池和明様、埼 玉県地域婦人会連合会会長柿沼トミ子様よりごあいさついただきました。 次に、吉川尚彦会長理事が第1号議案から第4号議案まで一括提案し、 4人の代議員からの発言、議案討議のまとめを経て、採決をおこない、全て の議案が承認可決されました。

創立50周年記念講演会を





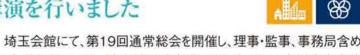
埼玉県立大学 川越雅弘さん

埼玉県生協連創立50周年記念講 演会が、ロイヤルパインズホテル浦和 にて開催され、会場49人、オンライン 26人、計75人が参加しました。「地域 共生社会の実現を目指した多主体協 働への取り組み~大学をハブとしたネッ トワーク構築とマッチング~」と題して、 川越雅弘さんにご講演いただきました。

NPO法人埼玉消費者被害をなくす会



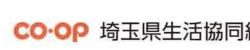








37人が出席しました。池本誠司理事長によるあいさつ、吉川尚彦専務 理事からの議案提案ののち、採決では全議案可決承認されました。 *表決権125個中、実出席24個、委任7個、書面79個、計111個(採決時) 総会終了後には、「消費者契約法の改正と残された課題」をテー マに弁護士の野々山宏さんにご講演いただき、会場37人、オンライン 52人計89人が参加しました。









会員生協の取り組み広がる県内生協の多彩な活動



生活協同組合コープみらい

1年を通じて合計200トンの お米を寄贈します





コープみらいは、コロナ禍で困 難を強いられている生活困窮者 の支援と日本の米づくりの応援を 目的に、2022年3月より1年間を 通し、合計約200トンのお米を、 地域のフードバンクをはじめ、生 活困窮者へ食料支援などを行っ ている団体へ寄贈しています。

埼玉エリアでは、5月20日まで に13団体へ約11トンを寄贈し、県 内の子ども食堂やフードパントリー などで活用いただいています。

こくみん共済 coop(全労済)

子どもの健全育成の 取り組みを行いました







子育て世代の支援として、こども食堂 への食料提供に力を入れている「特定 非営利活動法人フードバンク埼玉 へ未 使用食品46点の寄贈と当会事務局内 で募った募金33.816円を寄附しました。 また、次世代を担う子どもたちとそのご家 族等への支援を目的に、「あそぶ力は生き る力~健やかな子どもを育むためのヒント ~」と題し、専門家2名による講演動画を 県内約900の協力団体、関係団体等へ 限定配信しました。

動画配信の案内

生活クラブ生活協同組合

実験で体感!食育講座









越谷市の蒲生でらこや(放課後子ども教室)の小学生10人が参加して、食の安 全や健康な食生活について学ぶ「おかしサイエンスラボ」を開催しました。子どもたち は、お菓子やジュースの色や糖分を知る実験を交えて、普段は無意識に使っている 五感の働きや美味しさを感じる仕組みや、毎日のごはんの大切さについて楽しく学び ました。食育講座は、生協の食材を利用している法人や一般の幼稚園・保育園・小 中学校向けに開催しています。

医療生協さいたま生活協同組合

生活協同組合パルシステム埼玉

17年目を迎えた 南埼玉産直ネットワークとの交流







パルシステム埼玉と南埼玉産直ネットワークの交流は17年目を迎え、5月28日 (土)に「2022年度岩槻田んぼ交流」がスタートしました。抜けるような青空の下、 7家族26人が参加し、田植えを行いました。今年も生産者のみなさんの指導のも と、彩のかがやきを育てます。

参加者は泥の感触に戸惑う中、慣れるにつれ楽しみながら植えることができまし た。今後も草取りや生きもの観察などを通じて、農作物を育てる苦労や農薬を使用 しない環境保全型農業への理解を深めます。

埼玉大学生活協同組合

3年ぶりに対面での 新入生交流会を開催









「くらしの学校」で 新たなつながりを











医療生協さいたま県中地域ネットワークでは、健康や医療・介護、くらしに関わる社 会保障制度、憲法を学ぶ「くらしの学校」を開校しました。講座は「子どもたちの笑顔 ある社会って」「車の運転をやめたとき」「よりよい人生のしまい方」の3つ。「よりよい 人生のしまい方」では、看護長を講師に「アドバンス・ケア・プランニング(人生の最終 段階における医療やケア)」などを学びました。また、ゲームを通してこれまで自分が大 切にしてきたこと、最期をどのように迎えたいかなどグループワークで理解を深めまし た。「死について具体的に考えられた」「人生の最期を家族と話そうと思った」などの 感想があり、今後、ほかの地域ネットワークでの開校をすすめていきます。





今年の新学期、2019年以来となる対面での新入生交流会を開催しました。 感染対策のため、人数制限での開催となりましたが、体育館でのレクリエーション やゲームなどで新入生の不安解消と友達作りのお手伝いをしました。

3日程で開催し、合計で100人以上の参加者がありました。

まだまだ以前のような大学生活には戻っていませんが、いろいろな企画を少し ずつ再開させていきたいと考えています。